

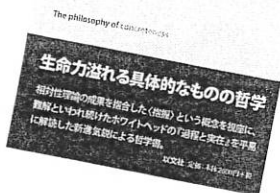
ホワイトヘッドの「具体性」とは何か

著者の幅広い哲学研究と論述

伊藤重行

森元齋

具体性の哲学



森元齋氏の最初の論文を読んだのは、約五年前の「プロセア思想」第14号（日本ホワイトヘッド・プロセア学刊）に掲載された「経験と主体——ドゥルース哲学とホワイトヘッド哲学の差異について」であった。その後彼の論文が掲載されなかった。どうも、たの気がなっていた。しかし彼の本書『具体性の哲学』を読むと、フランスに留学していたことが分かった。彼の哲学研究の幅の広さから考察して、これから将来にわたって期待できる日本の哲学者になるであろう。

ところでこの書評を書く機会が与えられて、ふと振り返って見ると、今から五十年も前のことが思い出される。学生運動が荒れていた頃であり、左翼的傾向の強い時代であった。時代の流行に乗らなかった拙者は、ひたすら神田神保町の古書街を散策していた。

た。日本の左翼的な研究者がラッセルに関心をもっていたのは、ラッセル自身は自分の先が、ラッセル自身は自分の先生がホワイトヘッドであり、しかも完璧な先生であったと断言していた。百科事典のフリスニカの数学欄がホワイトヘッドによって書かれていた。さらに大島豊の『宇宙論』などを購入し、読んでいた中にホワイトヘッドがあった。この当時もう既に『科学と近代世界』が翻訳されていたし、『数学入門』（神田の古書店で発見して購入）も新潟の出版社から翻訳出版されていた。数学者から形而上学を構築したことに興味を持ち、ひとりで原書『過程と実在』を読んでいた。驚きは1980年に入って日本ホワイトヘッド・プロセア学会が澤田允茂教授（慶應義塾大学）のラッセルとホワイトヘッド——

を学習院大学で開催することによって——シャヴィロとハーマンへの応答」のことは日本でのホワイトヘッド研究が本格的になった事を意味する。ホワイトヘッド研究でお世話になった澤田允茂先生、市井三郎先生、藤川吉美先生、鶴見俊輔先生はもう既に他界している。

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 形而上学のほうへ」
「第III部 生成と主体」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」

「第I部 生成のほうへ」
「第II部 生成のほうへ」
「第III部 生成のほうへ」
「第IV部 生成のほうへ」
「第V部 生成のほうへ」
「第VI部 生成のほうへ」
「第VII部 生成のほうへ」
「第VIII部 生成のほうへ」
「第IX部 生成のほうへ」
「第X部 生成のほうへ」
「第XI部 生成のほうへ」
「第XII部 生成のほうへ」
「第XIII部 生成のほうへ」
「第XIV部 生成のほうへ」
「第XV部 生成のほうへ」
「第XVI部 生成のほうへ」
「第XVII部 生成のほうへ」
「第XVIII部 生成のほうへ」
「第XIX部 生成のほうへ」
「第XX部 生成のほうへ」
「第XXI部 生成のほうへ」
「第XXII部 生成のほうへ」
「第XXIII部 生成のほうへ」
「第XXIV部 生成のほうへ」
「第XXV部 生成のほうへ」
「第XXVI部 生成のほうへ」
「第XXVII部 生成のほうへ」
「第XXVIII部 生成のほうへ」
「第XXIX部 生成のほうへ」
「第XXX部 生成のほうへ」